

ジオパークを立ち上げるには？

How to establish geopark?

渡辺 真人 [1]

Mahito Watanabe[1]

[1] 産総研・地質情報研究部門

[1] GSJ, AIST

昨年始めて日本から世界ジオパークネットワークへの申請が提出された。また、日本ジオパークの認定も行われた。本発表では、ジオパークとは何を指すかを簡単に解説するとともに、どのように組織を立ち上げ、どのような活動を行えばジオパークになるのか、また申請にあたってはどのような手続きが必要か、審査の体制はどうなっているのかをレビューする。

ジオパークの設立にあたっては、まず中心となる団体が必要である。日本のこれまでの例では、ある自治体の中に「ジオパーク推進室」と言ったものを設立し、そこがまず活動の中心となる場合が多い。NPOが推進母体であるケースもある。この「言い出しっぺ」が活動の輪を広げていくことが第二段階である。自治体が始めた場合には市民を、NPOなど市民団体が始めた場合は自治体を仲間に加え、さらに地元企業などに加わってもらう。また、地元大学、地元博物館などとの協力が、ジオパークでの活動のためには不可欠である。最終的には地域全体がジオパークの理念を理解し、協力できる体制を作ることが重要である。体制とともに重要なことは、ジオパークを支える人作りである。ジオパークの核は地域の自然と文化を語るインタープリターである。ジオパークは自然に触れる場所であると同時に、地域の人に触れる場所でもある。

このような体制が整ったら、申請書を準備し、「ジオパーク」という看板を取りに行くこととなる。体制と人がそろっていれば、「日本ジオパーク」の看板は問題なく日本ジオパーク委員会に認められるはずである。その上でジオツーリズムの実績を積み、世界ジオパークの申請が可能となる。